



茨城県石岡市東成井1617の5
電話 〇二九九一五六一六二三七

第9号(秋号) 11月1日
平成28年 発行 波切不動寺

<http://www.iwamanamikiri.net>



人知を超えた自然の力、御嶽山は生きている。

波切不動寺は行を通して
靈力をつけていく

だとお怒りになったのでしょうか。というのも、昔は精進潔斎しょうじんけっさいといって、御嶽山に登るには100日間修行をし、身を清めてからでなければ、登拝は許されなかったのです。

10月25日と26日に、信者さん3名と一緒に御嶽参りへ行ってきました。御嶽山に向かった日はまるで嵐のような天候で、田ノ原(御嶽山7合目)は、気温が4度しかありません。強い雨と風の中、とてもお山に登って拜めるような天気ではなかったのが、次の日は青空に一変。昨日まで厚い霧の向こう側にあった御嶽山が、今はわたしたちの目の前に雄大な姿を見せてくれています。

今もお山はとても神聖な場所です。以前、わたしが御嶽山で修行している時、裸足で登って行く高齢の女性とすれ違いました。裸足で登る理由を聞くと『ご神体に靴なぞ履いて登るなんてもつてのほか』と言います。年齢を聞いたところ92歳とのこと。お元気ですね、と声をかけると『わたしの力で登るんじゃないんだよ、このお山が登らせてくれるんだよ』

不思議なことですが、確かに御嶽山は導いてくれるのです。こうして御嶽山を信じて【氣】をいただくという参拝が、1300年以上も続いているのです。



先達せんだつさんに連れられ
行をする、その意味とは

自分の生活の中で避けた方がいいものや、氣に障るものを感じられるよう

になるのが靈感です。一生懸命、御嶽山に手を合わせていると靈感が付き、それがいつしか家庭生活や日々の仕事などに生かせるようになります。言い換えればこれがご利益なのです。

波切不動寺の信者さんは、波切不動寺という乗り物によって御嶽山で行をしているのです。皆さんは『先達せんだつさん』に率いられて行をしているのです。例えるなら紹介状をもって、一流の医者いしゃに診察・執刀してもらおうようなものです。

今回、御嶽山の岩屋の中でお経を唱えていると、一緒に読経をする声が聞こえてきました。おそらく行の途中で亡くなった修験者の方たちでしょう。それからドーン、ドーンと下から突き上げる衝撃を受けたのです。わたしだけでなく、一緒に行った信者さんも感じた不思議な出来事でした。



お山は生きている。暴れば土が動く。あらゆる事象、もののすべては「陰」と「陽」の相反する2つの「氣」によって成り立っています。自然のすごさは人知を超え、時には期待以上の素晴らしい景観や感動を与えてくれます。



今回の参拜で、改めて御嶽山の大きなパワーを受け、お山がわたしたちを待っていてくれたことを確信しました。



▶「三宝荒神」の三宝とは、火・水・土のことです。波切不動寺の荒神さまも、御嶽山と深い関わりがあります。当寺に荒神さんをお連れするため、何度も何度も御嶽山に足を運び、行を積んできました。

弁財天さまの御座所の建立始まる



弁財天さまが
ご自身で資金を調達する

弁財天さまのお社をそろそろ建てなければと、今年の春くらいから考えていました。弁財天さまの御座所は、本堂からみて巽（辰巳）の方位に建立しようと計画していました。時も同じころ、常総市の染谷悦子さまから多額のご寄進を頂戴し、あまりに金額が大きかったので驚いた反面、仏さまのご意向がわからずにおりました。

数日が経って、弁財天さまのお社か

ら『わたしの御座所がない』と声が聞こえてきました。とはいえ、お稲荷さまが『わたしが先だ』とおっしゃり、覆い屋を先に建立したのです。

弁財天さまは寺に資金がないのをご存知だったのです。なんとご自身で御座所の建立資金を【ご浄財】という形で調達されたのだらうと、ようやく気付きました。弁財天さまの動きの凄さに驚かされ、感激したのです。

さっそく役員会を開催し、この次第を説明して、まずはご寄進いただいた金額で何が、どこまで可能かを検討し、建設計画を立てました。

昨年、かずみがうら市の飯田興業さんから頂戴した石で岩屋を建て、その前に八角堂（弁財天護摩を焚く）を作り、後ろに礼拝殿を設けるのがいいだろう、ということになりました。下の写真をご覧ください。岩屋は本堂の屋根にせまる高さです。八角堂は来年の5月頃の着工になると思います。弁財天さまのお社は岩屋の頂上に、15童子さまが岩の上にお座りになる予定です。そこで、八角堂を建てる前に、礼拝殿を先するか迷い、一方で資金不足も心配しています。

ご寄進のお願い

この度、お気持ちのある信者の方から広くご寄進を募ることとなりました。弁財天さまの御座所建立のご寄進を希望する方は、一口1万円で何口でも受け付けております。

***締切：平成29年2月3日節分**



「信は莊嚴から」。

「信は莊嚴から」は「ありがたいものがありがたくお祀りさせていただくことから始まる」という意味です。

この秋、波切不動寺のお稲荷さまにとても立派な覆い屋ができてきました。これは皆さまからお稲荷さまへの最高のプレゼントです。とても喜ばしいことです。

毎朝、般若心経や陀羅尼をお唱えしてお参りしますが、覆い屋ができてから神気が増したように感じます。

さて、ハラハラと落ちる色の変わった葉を見ますと、思い出すのは醍醐寺の下座行です。

醍醐寺の秋は毎日が大量の落ち葉との戦いでした。集めても集めても、降ってきます。集めてはリアカーで運び、集めては運び。きりがありません。昨日きれいにしたばかりなのに、今日には落ち葉だらけ。

だからと言って、今日落ち葉かきをしないわけにはいきません。なぜなら、仏さまのお庭が落ち葉でよごれてしまいますから。

さらに雨でも降ったら大変です。濡れた落ち葉は余計に始末になりません。そこでいつも先輩や先生に言われたのが

「信は莊嚴から」という言葉です。その当時は、修行僧に掃除をさせるための常套句と思っていました。



今朝、お稲荷さまにお参りする時、なぜかこの言葉が思い出されて気になったので「莊嚴」について調べてみました。莊嚴というと、普通は「飾り立てること」また「飾り立てられたようす」のことだと思えます。辞書にはさらに「建立すること」「みごとに配置配列されていること」とあります。

わたしは、きれいに掃除をして、堂内に仏具をきれいに並べるのが「莊嚴」だと思っていました。

当時、1200年の歴史と伽藍がある寺で毎日「信は莊嚴から」と言われ、行っていたのは、綺麗に掃除をして、堂内に仏具を綺麗に並べることでした。それが今思い返すと、それだけではないうです。

波切不動寺で「信は莊嚴から」と言った時には「きれいに掃除をして、堂内に仏具をきれいに並べる」だけでは足りません。現在、波切不動寺の仏さま神さまたちは、ひとつ屋根の下で暮らしておられます。この仏さま神さまたちは活動時間帯が異なり、好みの場所が違います。できるだけ神仏が喜ぶ形に、喜ぶ場所に祀りたい。

「とてもありがたいならば、とてもありがたいと祀る」ことよって、ありがたい仏さま神さまに喜んでいただき、皆さまに平安と弥栄が満ちるものだと思います。



風を起こしてゴトを動かす

護摩と二座式供養。稲荷供と弁天護摩。火と水の力で風を起こして、困難



な現状を打開します。

わたしたちが毎日お唱えしているお不動さんの真言の最後は「カーンマン」です。その中、梵字「カーン」の「カ」は風を表しています。「風」は目には見えませんが、岩を削ったり、モノを動かしたりする力があります。生き物が生きるのにも、息風が必要です。息が出たり入ったりしないと死にます。身体中に体液が「流れる」という動きも風のようにです。さらに、地球を見渡すと、暖かい火と冷たい水がぶつかる時に風が起きるように見えます。たとえば、太陽に熱せられた海の水が空に昇る時に風は起きます。また、上空で冷えて地上に落ちる時にも風が起きます。これらに地球の自転が合わさると渦を巻いて台風になったりします。熱(火)の交換の媒体(水)が熱を離したり受けたりする時、風が起きるようです。「カーン」には風を起こしてモノゴトを動かす変える。そんな意味があるのではないかと思えます。

波切不動寺では、「モノゴトを動か

し変えるため」に風を起こしています。そして波切不動寺には風を起こすため、二重の仕掛けがあります。

一、護摩(火)と二座式供養(水)

護摩は火(火の神さま)の力で供物を焼いて、方々の神仏に届けるものです。煙が天に昇り時間がたつと方々に消えるように、煙に変わったおいしい供物が宇宙いっぱいになると観想します。受け取った神仏は喜んで、護摩を奉納した人や拝んだ人にもご利益があります。護摩は上に向かう火ですから、仏・菩薩・天に供養するには適していると思えます。

ただ、護摩だけだと片手落ちです。しあわせの雨を降らすには水が必要です。水は低いところに流れ、どんな狭いところにも浸みていきます。地獄・餓鬼・畜生道に「落ちる」と言います。「落ちる」は下に向かい、下にあるものに「火」をかざしても熱は上昇するため届きませぬ。「落ちた」ところに何かを届けるには自然に下に向かい、どんなところにも馴染んでいく水を使うのが適しています。

二座式供養は水を使った供養法です。供物と水を加持して三悪道(地獄・餓鬼・畜生道)に落ちた者たちに与えます。

護摩と二座式供養の火と水が合わさると新たな風が生まれ運命の卍が回り出します。

留まると淀む。淀むと腐る。川の流れても、家の中の空気でも、道路の車の流れでもかまいません。想像してみてください。何事も流れていなければ腐ってしまうのです。

「護摩の火」と「先祖供養の水」でしあわせの風を起こしましょう。今年の11月から3回の縁日護摩の前後に【合同二座式供養】を行います。来



▲二座式供養できちんと供物を配置した例。ご先祖の好物をお供えすると、なおよろしいかと。

た人が必ず良くなるように拝みます。

合同で行うのに2つの理由があります。ひとつは、お財布の負担は軽く、供養は濃く、何度でも供養したほうが良いと考えたからです。また、最近はお祈りや供養の日程が合わなかったりすることがもうひとつの理由です。

もちろん今までどおり個人的にも供養を受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

合同二座式供養詳細

◎第二日曜は護摩の後14時から。

17日、28日は護摩の前15時から。

◎申し込みは、当日の12時まで

・一霊：1万円

（個人の名前「波切太郎の供養」というようにお申し込みください）

・一家：3万円

（「波切家先祖代々諸霊菩提也」大きな塔婆を立てて供養します。）

・申し込み者が参座できなくても大丈夫です。

・供養料にお供物代が含まれていますが、亡くなった人の好物など特別供えたいものがあれば持参してください。

二、稲荷（火）と弁天（水）

稲荷は「稲成り」です。稲が成るためには、まず種が芽を吹かなければなりません。大自然が持つ種から芽を吹かせ育む力を「イナリ」と呼びます。大自然が持つ力は、これがここにあるというように「もの」として実体を視覚で捕らえることは出来ないませんが、確実に「はたらき」があるのです。お稲荷さまとはこの「はたらき」のことをいいます。

そのうえで考えてみましょう。わた



したちはいろいろな種を持っています。豊かになる可能性。しあわせになる可能性。楽しくなる可能性。これらの逆の可能性もあります。この可能性を「種」だと思ってください。よりよい種をしつかり育てて収穫するには、「イナリ」の種から芽を吹かせ育む力と、「弁財天」のさらさらと流れ滋養する水が必要で

す。弁財天はインドの川の女神さまです。川というのは下流になればなるほど、ほかの流れを飲み込んで太く広くなります。我々もかくありたいものです。年を取るにつれて、仲間と共に太く広くなる。弁天さまは手を合わせる人には何でも与えます。本人が気づいていなくとも、その人に絶対必要なものまで与えます。

ありがたいお稲荷さまと弁天さまですが、この御利益をいただくには順序があります。

①護摩と二座式供養で受け取るベースを作りましょう。

護摩と二座式供養で状況は良くなります。大変な状況から、奇跡的に良くなっている人を何人も見ていますから、間違いありません。肝心なのは、「ただく支度」をしておかないとお稲荷さまや、弁天さまが与えてくれても受け取れないということです。「ただく支度」が護摩と二座式供養を重ねることです。供養は亡くなった人に「供えて養う」わけですから、繰り返し行う必要があります。「昨日ご飯食べたから今

日は食べなくてもいいや！」という人がいないように、「昨日供養してもらったから、もう供養してくれなくてもいいや」とはなりません。亡くなった人も一緒です。繰り返し、繰り返し大きな力になるのです。

②そのうえで稲荷・弁天の氣をいただきます

さらに勢いが欲しい人はお稲荷さまと弁天さまを拜むべきです。尽きることなく産み出し続ける稲荷の氣。どこまでもさらさらと広がりながらなる弁財天の氣。お参りして手を合わせるだけで、どちらの氣もいただけます。





八千枚護摩について

毎年「自分の大掃除」「悪業を燃やし尽くす」とCMしていますが、それがどこに溜まっているのか。たとえば、「目が曇る」という慣用句があります。「目が曇っている」と見当が外れ、モノゴトがうまくいきません。「目が曇る」のは欲が原因であったり、恨みが原因であったり、体調の不良が原因であったり。心が静かに鎮まっていれば体調が整った状態で、はじめて「目の曇り」がなくなると、そのものが見えるのではないかと思います。このことが目だけでなく、耳、鼻、舌、身体、心（仏教では心を大



きく3つに分けます）で起こっているのです。この「起こっていること」を細かく見ていくと、それぞれ1000ずつあるそうなんです。見るといっても、動きを見るときか、形を見るときか、色を見るときか、ツヤを見るときか、細かく言うときキリがありません。これが1000ずつで、目、耳、鼻、舌、身体、三つに分けた心、合わせて8を掛け算したのが八千。八千枚護摩のまたのいわれです。

八千枚護摩は特別です。

密教の行には目的と方法と成就（達成）があります。それらは大きく4つに分けられます。「息災（そくさい）」

「増益（そうやく）」「敬愛（きょうあい）」「調伏（じょうぶく）」です。八千枚護摩は「息災」を目的として行いますので、「息災」について以前姫路で開かれた伝授会の折にメモしたものが面白かったので記します。

「息災」のシンボルカラーは白です。何度もお参りされている方は、わたくし法忍が白い衣で行じているのをご覧になっているはずですよ。

わたしは、白といっても絵の具の白ではなくて真っ白な光なのだと思います。太陽を裸眼で見た時のような強烈な光だと思っております。真っ白な光が拡散してすみずみまで照らすように、そのものズバリが見えるのだと思います。真っ暗な建物の中を心細い非常灯を頼りに歩くと、なんとも怖いものです。いつもはなんとも思わないような

影を人の影と見誤って肝を冷やす経験は誰でも持っていると思います。それそのものが見えるということは残酷なことであることも多いです。「現実には残酷だった」「知らぬが仏」とはよく言ったものです。ただ、残酷な現実を見て見ぬ振りするほど、結局はもっと残酷な結果に見舞われることは皆さん経験していると思います。

そこで重要なのは、いち早くありのままの現実を見て、一番良い対処をすることです。見えないのに進めば、転びもするし、頭も打ちます。「息災」というのは「災（わざわ）いを息（や）める」ことです。大久保先生がいつも「大難が小難、小難が無難」と言っているのがこれです。

昔の人のセンスにも感動します。必ず「災い」の字はフォントサイズをかなり小さくして書くのが習い事です。わたしはこれをなんとも思っていないんですけど、姫路に行った時のメモには、『こまかい、こまかい災いまでみーんな息めんやで』と。一言メモでもいろいろ思い出せるものです。小さな種でも芽を吹くと全く違うものになることがあります。

さて、お不動さんの智慧の光が増すように明咒（真言）を十万遍唱えて、朝の護摩の80分を半日で焼くのです。他ではあまりしていません。本尊はカメラのフラッシュのような、ものすごい白い光で皆さんを照らします。先日、ケンカのたえな

かった家庭が、毎年八千枚のお札を迎えて以来、仕事が増えて豊かになり、今ではすっかり仲が良くなったという嬉しい報告をいただきました。

今年も昨年同様、鑑廣先生・隆海先生・泰教先生のご教授と、30名の行者が力を合わせて21座の供養を勤めます。一座でも多く参座していただき、お不動さまの力強い気を頂戴しましょう。

合掌

ご報告

平成28年10月15日に、法忍さんと日高優子さんが入籍されました。優子さんの職業はバレリーナなのですが、お寺に嫁したからには下座行から頑張るそうです。信者の皆さま、どうぞよろしくお願ひします。



波切不動寺の行事予定

12月4日夕方八千枚護摩開白

12月11日八千枚護摩結願

12月29日9:00～
すず払い・大掃除
(どなたでも参加できます)

1月1日0:00元旦 朝護摩

11:00三が日護摩

1月2日11:00正月三が日護摩

1月3日11:00正月三が日護摩

2月3日節分護摩18:00から
福まき19:00から

2月12日19:00初午稲成大祭

※行事の日時は、寺の掲示板または寺のホームページでご確認ください。



稲荷社【覆い屋】落慶法要が盛大に営まれる

10月2日は晴天に恵まれ、二百数十名の皆さまの参座を賜り、盛大かつ厳肅に神事が執り行われました。その場にて【宮大工・茅場直樹氏】に感謝状の贈呈をし、次いで岩田隆海先生、村上泰教先生のご講話、その後百味の供養で参座者全員が会食をして、楽しい落慶法要となりました。

覆い屋建設につきましては、ご信者の皆さまからたくさんのご奉納を頂戴したことを、心よりお礼申し上げます。

さぞ、お稲荷さまもお喜びのこと推察いたします。今後はより一層のご利益をくださると思います。当山の鎮守神ですから寺にお入りの節は、お詣りをしていたくださるとよろしいかと思っております。



①皆さまのおかげで立派な覆い屋が完成しました。前日までの冷たい雨がうそのように晴れ、汗ばむような陽気の中で落慶法要を執り行いました。②茅の上に供物を並べて稲荷供養をはじめます。③住職、僧侶と行者が大般若経の経題を唱えながら転読。④鳥居の奉納を承っております。⑤直会では赤飯と松茸ご飯、白魚の刺身や天ぷら、野菜のマリネなどご馳走が用意され、各自めいめいの皿へ好みに盛りつけて、おいしくいただきました。

編集後記

人は誰でも幸福を願っています。運を開こうとして、その方法を講じようとし、開運の道を知ろうとするのです。仏教においては開運の道として「運命を変えたくば、陰徳を積み」と教えています。

陰徳とは隠れた得です。人に見せびらかさない善行をいいます。どんな小さなことでもよいので、人から喜んでもらえるようなことをして、ただもう嬉しくてならないのが陰徳なのです。陰徳は火にも焼けず、水にも流されずに残ります。それはちょうど、池の面に投げられた小石が美しい波紋を描くように、どこまでも大きく広がっていくように……。

人生の主人公は自分です。

泣いても笑っても人生の中心は自分です。それぞれで素敵なストーリーを思い描いて「こうなりたい」と願ってください。願わないものは叶わないのです。絶対にしてはいけないものが、否定をすることです。「わたしはもうダメだ」「力不足でできない」などと思っていると、いつまでたってもしあわせが掴めません。否定をしないこと。そうすると自分の中にプラスの気が生まれてきます。「わたしはしあわせ」「わたしは富んでいる」「わたしは健康だ」など、ありったけのプラスの言葉を自分に投げかけてください。やがて想像したことが形となって現れてきますよ。

合掌